株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 TEL:0120-094-777（通話料無料）
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第2部 大阪証券取引所　市場第2部

【ご注意】

1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月（シヅキ）』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州（現在の山口県）の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城（指月城）から名をお借りしたのが命名の由来です。

株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867　兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821　FAX:0798-73-0807

PRINTED WITH SOY INK

シヅキ

証券コード 6994
東証二部・大証二部

第83期　報告書

株 主 通 信

平成22年4月1日～平成23年3月31日

特 集：シヅキの強み

変わらない強さを支える、変わり続ける取り組み。

シヅキ総合マネジメントシステムの徹底解剖

トピックス：シヅキの強さを支える工場

#02 高性能化が求められるコンデンサの開発拠点。

ついに完成しました「R&Dセンター」

株式会社 指月電機製作所
http://www.shizuki.co.jp/

「R&Dセンター」の完成により、新たなシヅキへ。“できること”を追求し、震災復興に貢献する。

代表執行役社長
梶川泰彦

東日本大震災におけるシヅキの被害状況と、復興に向けての取り組みについて。

はじめに、今回の東日本大震災で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。当社もグループ全体で義援金を募り、日本赤十字社を通じて寄付させていただきました。また、被災地域にお住まいの株主様宛てにお見舞いのお手紙をお送りいたしました。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。当社におきましては、日立営業所が被災し移転しましたが、それ以外では大きな被害は受けませんでした。懸念される資材不足も、協力会社のお陰もあり早々に目処が立っております。

こうした戦後最大の国難と言える出来事に直面して実感しているのは、当社は本当に素晴らしい人材に恵まれているということです。国内はもちろん、グループ全体でも例えばアメリカでは、地元オガララ高校の学生が「トモダチ作戦」と銘打って募金活動を行ってくださったのですが、アメリカンシヅキ社員も寄付金に協力し、最終的に10,000ドルを寄付しました。また、タイ指月電機でも女性社員を中心に57,000バーツを寄付してくれました。大きな金額ではないかも知れませんが、こうしたことを社長の私が音頭をとらなくても、自発的に行ってくれることを何より嬉しく思います。

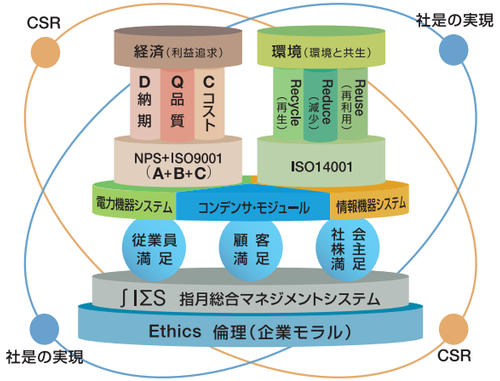
Fund-raiser and partnering business nets American Red Cross $14,060

アメリカンシヅキの地元、オガララ高校の学生達が「トモダチ作戦」と銘打って募金活動をしてくださいました。

震災後も好調を持続するために努力し、電気の低ロス化で復興への貢献を目指す。

事業に関しては、5月6日に平成23年3月期通期連結業績予想数値を上方修正いたしました。その主な理由は電鉄車両用コンデンサをはじめ、コンデンサ・モジュール事業の売上が予想以上に堅調だったこと。また、リーマンショック以降抑えられていた国内設備投資が持ち直し、電力機器システムも予想を上回る伸びを示したことにあります。これらは震災以前の市場動向であり、今後は事情も異なってくると思いますが、引き続き先手を打つ経営努力を行い、好調を持続できるよう頑張ります。

指月グループの経営概念



∫IΣS＜指月総合マネジメントシステム＞と Ethics＜倫理（企業モラル）＞を基盤として社是の実現と社会的責任を果たし、永続的成長を実践。
NPS: New Production System
A+B+C: A（開発、営業など）+B（生産）+C（物流、サービスなど）

今、エネルギー問題が取り上げられていることを踏まえても、これから先、ますます省エネ、省電力が求められます。そうしたニーズに対して、当社グループが提供している電気の効率活用を叶える各種コンデンサが果たせる役割というのは大きいはずです。だからこそ、高品質な商品を必要な時に優先的に提供することで復興に貢献したいと考えています。現在、震災の影響で自動車関連のコンデンサ・モジュール需要が落ちており岡山指月の稼働率が下がっていますが、その分、九州指月へ人員を配置転換し、技術の底上げを図るとともにグループ意識の向上を狙います。

シヅキを支える物づくり力の高さ。さらに強さを強固にする「R&Dセンター」が完成。

震災があってもなお、当社グループが平常どおり物づくりに取り組めるのは、かねてからどんな市場の変化にも迅速に対応できるよう内製化率を高めてきた企業努力の賜物であると自負しています。また、一極集中ではなく、秋田、兵庫、岡山、福岡と工場を分散し、リスクヘッジできていることも大きい。これは創業者に感謝しなくてはいけません。しかし、まだまだ改善すべき点は多々あります。今期も現状に満足せず、努力邁進し続けます。

この度、その一環として、新たに岡山指月の敷地内に研究開発拠点「R&Dセンター」を建設しました。この「R&Dセンター」は太陽光発電や次世代自動車の普及に伴い更なる高性能化が求められるコンデンサの研究開発・新素材開発を行う拠点です。この「R&Dセンター」の完成により、「R&Dセンター」が新たな市場を切り拓き、続いて各工場の研究開発が商品化し、最後に生産ラインが確実に量産していく体制が整ったことになります。今号のトピックスでも詳しく取り上げておりますので、ぜひご一読ください。

2013年に向けて厳しくも前へ進むシヅキ。先手を打つべく、海外での活動も強化。

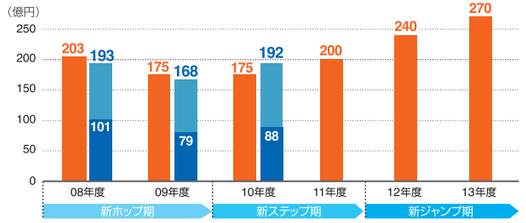
続いてAIM2013の進捗状況についてですが、少し予想を下回るものの、大きなブレはないと言えます。震災の影響もあって自動車関連、特にハイブリッドの分野が厳しいものの、これはいずれ回復するはずです。そして、今期も電鉄車両用コンデンサの需要は大いに期待できます。これから先は中国との競争になると思われますが、ここでも高い内製化率、そして、多品種少量にも迅速に対応している点が功を奏し、リードできています。このリードを確実なものにするという役割も「R&Dセンター」には期待しています。

また海外、特に東南アジアにおいてインフラ関係の分野でコンデンサの需要が高まると予測しています。それに先駆けて海外営業がプロモートして現地で技術セミナーなどを開き、コンデンサの重要性を解説し、まずは信頼を獲得するところからはじめています。そうすることで、いざという時にご指名いただけるよう努力を続けています。こうした「種まき」が、後々確実に成果につながるはずです。実を結ぶまで時間を要するかも知れませんが、株主の皆様方にはご期待いただき、今後も変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

経営指標

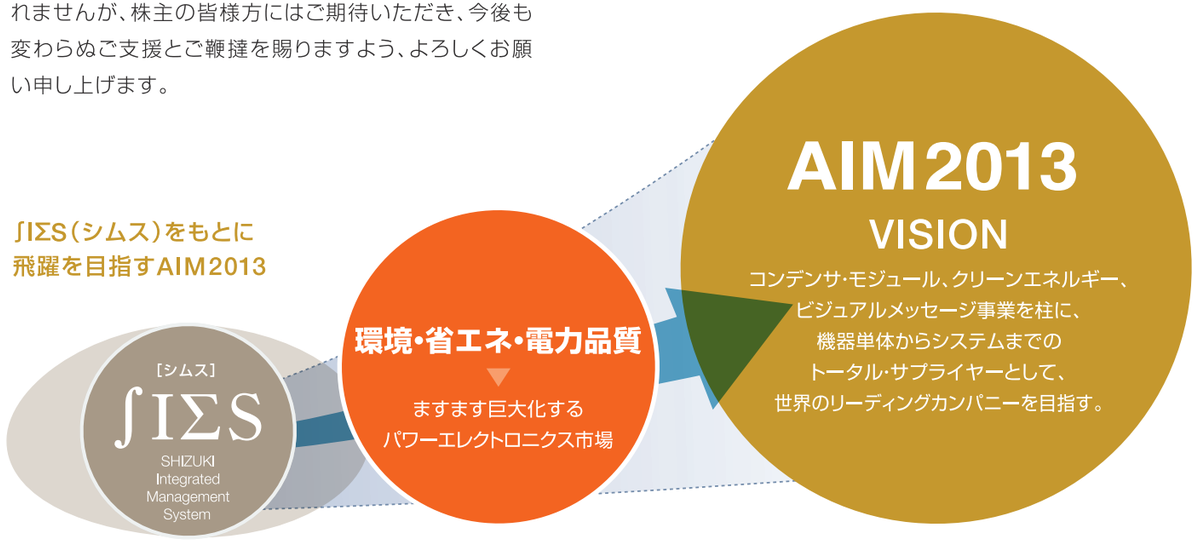
項　目	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
	新ホップ期	新ステップ期		新ジャンプ期	
営業利益　(億円)	13.0	**15.9**	16.3	24.0	32.4
総資産経常利益率(ROA)　(%)	7.2	**8.1**	8.5	12.0	14.1
一株当り利益(EPS)　(円)	32.8	**33.9**	34.0	50.0	60.9
	実績		計画		

売上高目標



AIM2013経営戦略

- 対応型から提案・ソリューション型企業への革新
- 重点事業領域(ドメイン)の拡大
- 事業活動の最適化(∫IΣSの展開)
- 共育と訓練(指月PPVSの展開)
- 固有技術のプロ集団化(研究・開発の環境整備)



シヅキ総合マネジメントシステム∫IΣS		中長期計画 AIM2013 シヅキが目指す2013年度のあるべき姿			
物づくり	人づくり	全売上高	総資産経常利益率(ROA)	営業利益	一株当り利益(EPS)
●JIT・自働化 ●NPS活動	●指月PPVS	270億円	14%	32億円	61円

変わらない強さを支える、変わり続ける取り組み。

シヅキ総合マネジメントシステム の徹底解剖

環境変化に適応できる進化する人・組織

∫IΣS

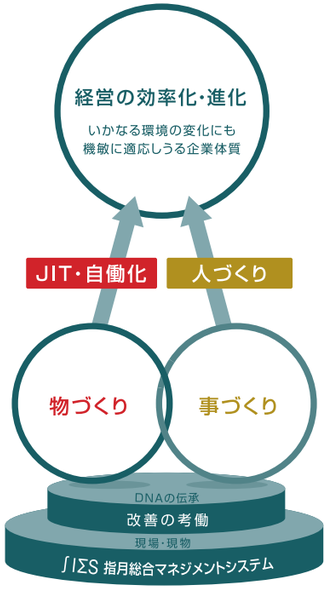
SHIZUKI Integrated Management System［シムス］

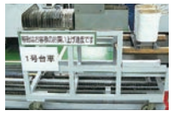
シヅキの使命、それは電気の品質をコントロールする、フィルムコンデンサの開発・製造を通じて、交通機関や工場設備をはじめとした「社会」を支えること。そんな重責を背負うためには、シヅキ自身が、どんな出来事にも揺るがない強い会社でなければなりません。
では、強い会社であるために、シヅキはどんな取り組みをしているのか。
ここでは独創的な総合マネジメントシステムについてご紹介します。

システムでさえも自分たちにあわせてカスタマイズ。

シヅキの思想を可視化した「∫IΣS（シムス）」

シヅキの強さ、それは「お客様の要請に応える力がある」ことです。顧客ニーズのソリューションを徹底するためなら、生産ラインでさえも自社で構築してしまいます。いわゆるJIT生産方式と自働化で物づくりを進化させ、個人の能力をビジュアル化するPPVS（Person Power Visual System）などで人づくりに取り組むことにより現在のシヅキの地位が確立されたと思われがちですが、実はそれらの物づくり、人づくりの根幹を支える、指月総合マネジメントシステム「∫IΣS（シムス）」こそが、シヅキ最大の特長です。
この指月総合マネジメントシステム「∫IΣS（シムス）」は、日常業務を遂行するなかで創意工夫と改善努力を積み重ねることにより、品質の確保と合理性を追求し、どんな急激な環境の変化にも対応できる企業体質を作ろうというもの。人でも、組織でも常に検証し、改善に改善を重ね、生まれ変わらせようという経営の基本方針であり、いわばシヅキという企業そのものといっても過言ではありません。





JIT生産方式

お客様のお買上げスピードに合わせた物づくり体制

自働化

変種変量に対応するため生産設備は社内で開発生産

PPVS

個人の能力・技術を掲示し、共有する仕組みを構築

超効率型経営を叶える生産管理システム『NPS（New Production System）』を導入

故大野耐一氏（トヨタ自動車元副社長）が提唱、指導したトヨタ生産方式をベースに「多品種少量、無在庫」を旨とする生産システム。シヅキではこのシステムを導入し、1業1社に限られるNPS研究会にも参加。会員企業同士、優秀な人材を派遣して業務改善の仕組みを提案・実行するなど、切磋琢磨しながら「効率生産」を学び、改善の取り組みをしています。製造業として現状に満足せず常に進化し続ける姿勢は、この活動を通じて培われています。

#02　高性能化が求められるコンデンサの開発拠点。

ついに完成しました「R&Dセンター」

新素材・新商品を研究開発し、新市場（新用途）へ進出するために

この度、本社「R&Dセンター」（岡山）が完成しました。この「R&Dセンター」は、次世代パワーエレクトロニクスの技術トレンドへの対応を目指して、最新の評価・検証設備や分析・解析設備を導入した「基礎研究開発」を行う施設。今後、この「R&Dセンター」で「エネルギー密度が高く、小型・軽量」といった素材開発における課題や「エネルギー密度が高く、高周波対応」といった高性能化における課題、さらには今やすべての製造業で必須となっている「高性能・高信頼性で、かつ低コスト」という課題をクリアするための研究開発を推し進めます。

そして、この「R&Dセンター」から生み出された画期的な新素材・新商品で、新たな市場を切り拓き、当社グループのさらなる発展につなげていきます。

お客様に近い立場から、ニーズにマッチした研究開発を実施

「R&Dセンター」は、岡山指月の工場に隣接させています。その理由は、できる限りお客様に近い場所にある方が、開発スタッフが自身の成果をダイレクトに実感でき、より市場のニーズにマッチした研究開発を行えるからです。

完成を受けて、これまで常駐していた25名の開発スタッフを30名に増員。将来的には50名にまで増やし、研究開発企業への「深化」を目指します。

なるほど！シヅキの技術力！

今こそ、シヅキができること

「省エネ」という価値を提供し、復興に貢献

シヅキはテクノロジーをもって、電気を高品質化し、受変電設備の「力率（りきりつ）」※を改善し、工場や、ビルなどで使われる電気の無駄を減らします。東日本大震災の発生を受けて、節電が強く叫ばれている今、電気の無駄をなくす私たちシヅキの商品群が注目を集めています。ここに、シヅキ自慢の省エネ商品をご紹介します。

※電気エネルギーは「有効電力」と「無効電力」に分けられます。
実際に役割を果たす「有効電力」の割合を「力率」と言い、この「力率」が100%に近いほど電気が有効に使われていることを表します。

超低損失進相コンデンサLV-6シリーズ

シヅキ独自の電極構造（NH式）により世界最高水準の超低損失を実現。誘電体はオールフィルム、電極にアルミ箔を採用しているため、低損失でありながら、電流耐用性に優れています。

低損失直列リアクトルLR-Sシリーズ

標準型の構造を見直すとともに巻線電流密度の低減、ハイグレード鉄心を採用。これにより当社従来品と比べて、電流の損失を1／2に抑えています。

低損失高圧進相コンデンサ設備 Q-PAC-1L、2Lシリーズ

低損失コンデンサと低損失リアクトルを一体化した省エネ型コンデンサバンク。世界最高水準の超低損失を実現します。

リアクトル内蔵低圧進相コンデンサ設備 LB3-Sシリーズ、V-PACシリーズ

低圧側での力率改善は省エネという意味では最も効果的で、その上、高調波の流出を抑制する効果もあります。

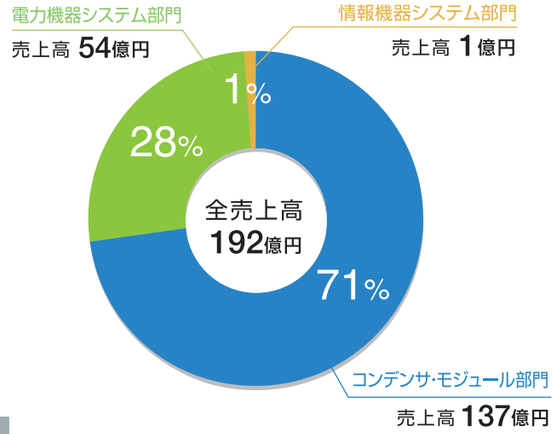
新エネルギーを支える商品開発

寿命の長さや電流耐用性の面から、その一部がフィルムコンデンサに置き換わりつつある「電解コンデンサ」。シヅキでは、特にニーズの高まっている新エネルギー用途で対応商品の開発を推進しています。原子力発電政策の転換に合わせて増加する風力発電や太陽光発電にマッチした商品の開発、拡充、販売を国内のみならず、世界に向けて促進していきます。

事業概要と展望

当連結会計年度におけるわが国の経済は、新興国の経済成長に支えられた輸出の拡大、米国の着実な景気回復および国内設備投資の緩やかな回復基調を受け、企業収益は堅調に推移しておりました。しかし、期後半からの急激な円高の進行、株安、材料価格の高止まり懸念など、経営環境には先行き不透明感が残る結果となりました。また、3月に発生した東日本大震災により、わが国は各方面・分野において多くの難題に直面しており、今後の経済に多大な影響があるものと予想されます。このような市場環境のもと当社グループにおいては、パワーエレクトロニクス用コンデンサが堅調に推移し売上高が計画を大幅に上回る結果となりました。今後も引き続き新商品開発を積極的に行い新市場の開拓・拡販活動、原価低減活動、経費削減活動を全社一丸となって取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、ますますのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

部門別売上高比率（2011年3月）



コンデンサ・モジュール部門

売上高構成比率 71%

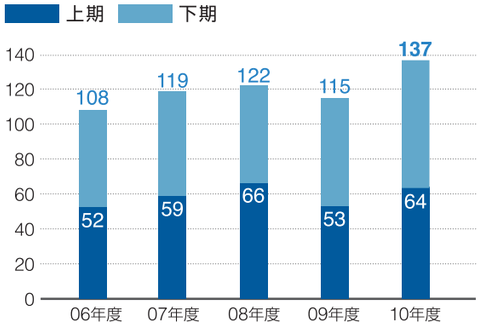
回復しつつあった自動車産業向け商品は、震災影響を受け期末にかけて減産を余儀なくされました。
一方で、世界的なインフラ需要による電鉄車両用コンデンサが好調かつ堅調に推移し、売上高は前年同期比19.7%増加となりました。今後、新エネルギーや次世代自動車、電鉄車両などパワーエレクトロニクス用のコンデンサはますます高性能化、小型化が求められます。このようなニーズにお応えするために「R&Dセンター」で研究開発を推し進め、新たな市場を切り開き、受注拡大を図ってまいります。

X線顕微鏡・電子顕微鏡用コンデンサ

インバータ平滑用コンデンサ

EV・HEV用コンデンサ

コンデンサ・モジュール部門売上高（単位:億円）



電力機器システム部門

売上高構成比率 28%

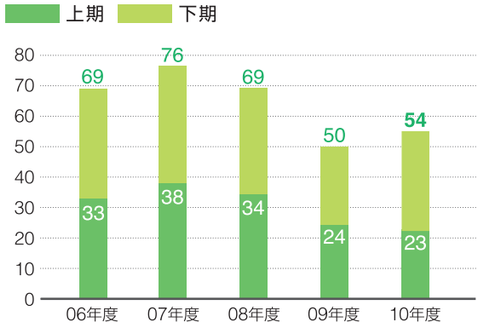
省エネ、新エネルギーなどの新規需要が拡大傾向にあります。また、当期後半より設備投資も緩やかに回復基調で、需要も上向きつつあり、堅調に推移しました。省エネや環境関連のニーズはさらに増大する見込みで、当社が得意とする「力率改善装置」や「電力品質改善装置」などの需要は拡大するものと予測されます。今後も引き続きお客様に貢献する商品を開発するとともに、商品の拡充、販売強化を図ってまいります。

フィルタ設備

窒素ガス封入式
高圧進相コンデンサ

コンデンサ自動制御装置

電力機器システム部門売上高（単位:億円）



情報機器システム部門

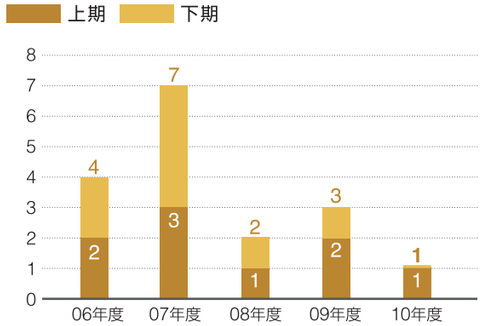
売上高構成比率 1%

主力商品である「バス用表示装置」ならびに「鉄道用表示装置」はやや低調に推移しました。今後も「バス用表示装置」、「鉄道用表示装置」の拡販に注力するとともに、「空港用表示装置」に加え「スポーツ施設用表示装置」の市場にも営業活動を拡げ、受注確保を目指します。また、「バス用表示装置」については、当社独自の技術を活用した商品開発を進め、バスロケーションシステム機能搭載の液晶表示器など商品ラインナップの拡充を進めてまいります。

バス用表示装置

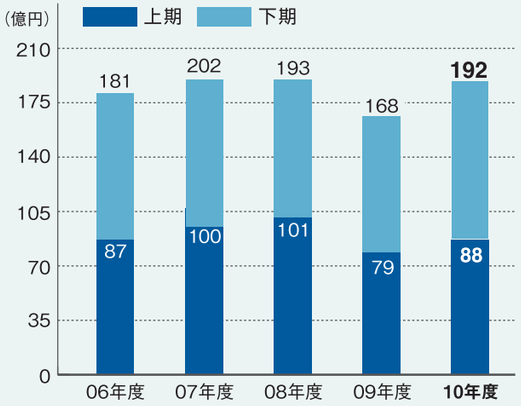
スポーツ施設用表示装置

情報機器システム部門売上高（単位:億円）

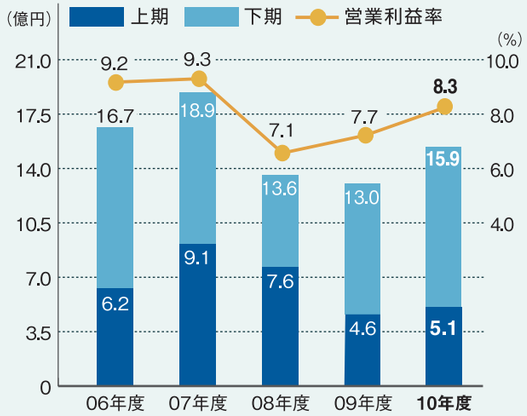


財務ハイライト（連結）

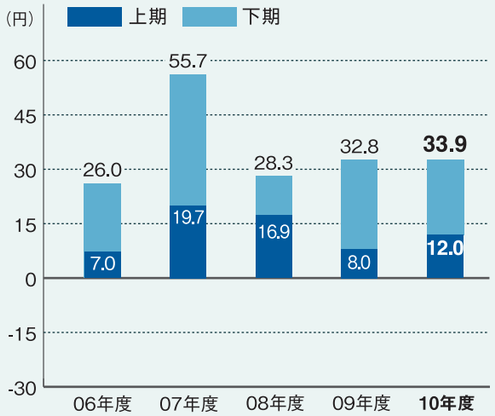
売上高
産業用コンデンサが好調、対前年比14.5%増収



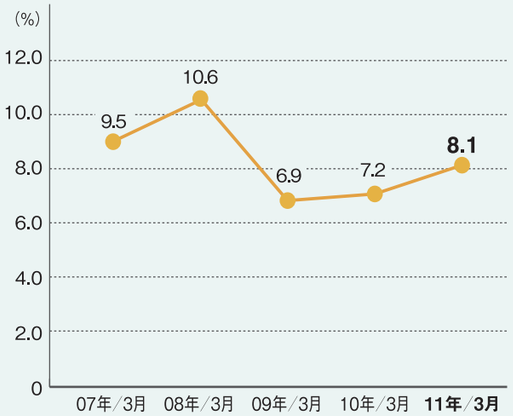
営業利益・営業利益率
原低活動に売上増も寄与し、対前年比22.5%の増益確保



1株当たり利益（EPS）
安定した利益確保によりEPSの向上を実現



総資産経常利益率（ROA）
堅実な利益確保と資産純化により着実に改善

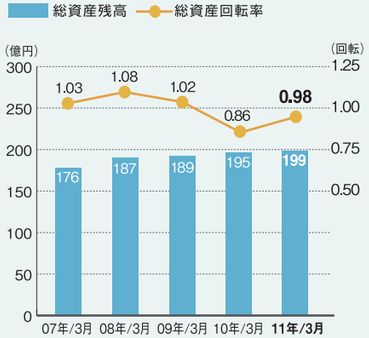


POINT

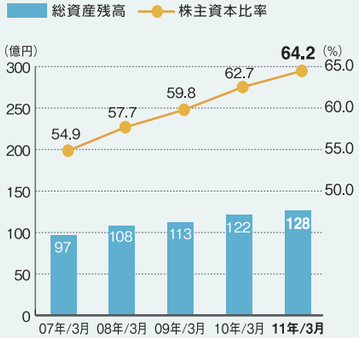
中長期計画13年度270億円達成に向けて引き続き積極投資を継続

売上高、利益確保により、各種経営指標はさらに健全化を実現。本社R&Dセンター竣工により、新技術の進展も一層加速。

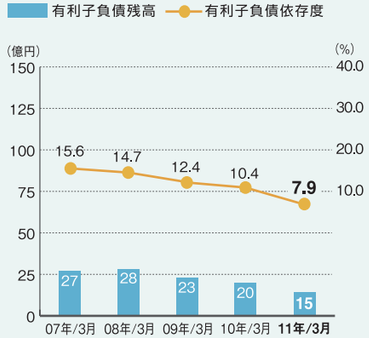
総資産残高・総資産回転率



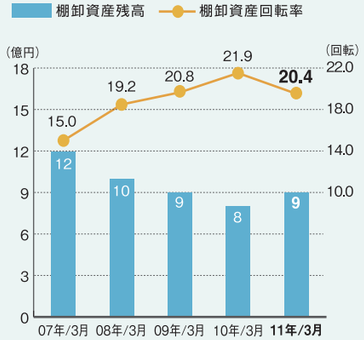
純資産残高・株主資本比率



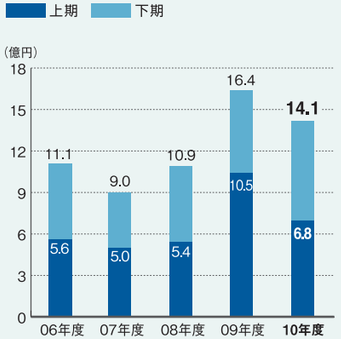
有利子負債残高・有利子負債依存度



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



設備投資額



連結財務諸表

（注）十万円の位を切り捨てして表示しております。

連結貸借対照表（要旨）

（単位:百万円）

科目	第82期期末 平成22年3月31日現在	第83期期末 平成23年3月31日現在
資産の部		
流動資産	8,594	8,878
現金及び預金	4,094	3,408
受取手形･売掛金	3,250	4,063
棚卸資産	768	942
その他資産	482	464
貸倒引当金	△1	△1
固定資産	10,856	10,985
有形固定資産	9,560	9,730
建物及び構築物	2,655	2,500
機械装置及び運搬具	1,678	1,905
土地	4,404	4,403
建設仮勘定	528	649
その他	293	271
無形固定資産	40	49
投資その他の資産	1,255	1,205
投資有価証券	618	591
長期貸付金	17	1
その他	639	616
貸倒引当金	△19	△4
資産合計	19,450	19,863

POINT

堅実な手元流動性を原資に、積極投資を推進

新分野、新技術、新商品開発により売上拡大を目指し設備投資を継続中です。

（単位:百万円）

科目	第82期期末 平成22年3月31日現在	第83期期末 平成23年3月31日現在
負債の部		
流動負債	3,837	4,680
買掛金	741	884
短期借入金	990	1,538
未払費用	1,073	1,044
未払法人税等	234	462
引当金	409	500
その他	387	250
固定負債	3,394	2,390
長期借入金	1,000	–
退職給付引当金	940	946
その他	1,454	1,443
負債合計	7,231	7,071
純資産の部		
株主資本	12,021	12,651
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,308	3,308
利益剰余金	4,657	5,456
自己株式	△946	△1,115
その他の包括利益累計額	164	105
その他有価証券評価差額金	91	94
土地再評価差額金	859	859
為替換算調整勘定	△786	△848
少数株主持分	32	35
純資産合計	12,218	12,792
負債純資産合計	19,450	19,863

POINT

有利子負債の圧縮および株主資本の増強進展

借入金の返済を進めるとともに利益剰余金の充実により株主資本は着実に増強しております。

（注）十万円の位を切り捨てして表示しております。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	第82期期末 平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで	第83期期末 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで
売上高	16,806	19,246
売上原価	11,615	13,404
売上総利益	5,191	5,842
販売費及び一般管理費	3,894	4,253
営業利益	1,297	1,589
営業外収益	239	196
営業外費用	157	185
経常利益	1,379	1,600
特別損失	38	76
税金等調整前当期純利益	1,341	1,523
法人税、住民税及び事業税	317	560
法人税等調整額	34	△50
法人税等合計	351	510
少数株主損益調整前当期純利益	—	1,013
少数株主利益	3	5
当期期純利益	985	1,007

連結キャッシュ･フロー計算書（要旨）

（単位:百万円）

科目	第82期期末 平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで	第83期期末 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ･フロー	2,130	1,551
投資活動によるキャッシュ･フロー	△1,526	△1,383
財務活動によるキャッシュ･フロー	△491	△839
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△14
現金及び現金同等物の増減額	△114	△685
現金及び現金同等物の期首残高	3,980	4,094
現金及び現金同等物の期末残高	4,094	3,408

POINT

フリーキャッシュフロー黒字化実現

安定した営業キャッシュフローの計上により積極投資をカバーし、2年続けてフリーキャッシュフローの黒字化を実現しました。

借入金返済推進

積極投資を継続するとともに、借入金の返済を進め財務体質を一層強化しました。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成22年3月31日残高	5,001	3,308	4,657	△946	12,021	164	32	12,218
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△208		△208			△208
当期純利益			1,007		1,007			1,007
自己株式の取得				△169	△169			△169
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△58	2	△55
連結会計年度中の変動額合計	—	—	799	△169	629	△58	2	573
平成23年3月31日残高	5,001	3,308	5,456	△1,115	12,651	105	35	12,792

個別財務諸表

（注）十万円の位を切り捨てして表示しております。

個別貸借対照表（要旨）

（単位:百万円）

科 目	第82期期末 平成22年3月31日現在	第83期期末 平成23年3月31日現在
資産の部		
流動資産	7,593	7,930
現金及び預金	3,057	2,180
受取手形･売掛金	2,978	3,837
棚卸資産	240	340
その他資産	1,317	1,573
貸倒引当金	△1	△1
固定資産	9,670	9,309
有形固定資産	5,699	5,819
建物及び構築物	967	899
機械装置及び運搬具	158	325
土地	4,144	4,144
建設仮勘定	336	361
その他	91	88
無形固定資産	18	16
投資その他の資産	3,953	3,473
投資有価証券	615	588
長期貸付金	1,560	869
その他	1,992	2,059
貸倒引当金	△214	△44
資産合計	17,263	17,239

（単位:百万円）

科 目	第82期期末 平成22年3月31日現在	第83期期末 平成23年3月31日現在
負債の部		
流動負債	3,331	4,078
買掛金	1,249	1,468
短期借入金	800	1,400
未払費用	746	705
未払法人税等	99	223
引当金	182	220
その他	254	60
固定負債	2,611	1,632
長期借入金	1,000	—
退職給付引当金	174	199
その他	1,437	1,433
負債合計	5,943	5,711
純資産の部		
株主資本	10,368	10,574
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,308	3,308
利益剰余金	3,004	3,379
自己株式	△946	△1,115
評価･換算差額等	951	954
その他有価証券評価差額金	91	94
土地再評価差額金	859	859
純資産合計	11,319	11,528
負債純資産合計	17,263	17,239

（注）十万円の位を切り捨てして表示しております。

個別損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

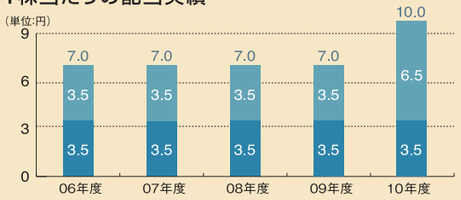
科 目	第82期期末 平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで	第83期期末 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで
売上高	15,283	17,593
売上原価	11,490	13,716
売上総利益	3,793	3,876
販売費及び一般管理費	2,912	3,052
営業利益	881	823
営業外収益	147	93
営業外費用	141	152
経常利益	887	764
特別利益	210	169
特別損失	15	67
税引前当期純利益	1,083	866
法人税、住民税及び事業税	190	286
法人税等調整額	86	△4
法人税等合計	276	282
当期純利益	806	584

期末配当金　1株当たり6円50銭

当期の配当金は、中間配当金と合わせ、1株当たり10円とさせていただきました。

1.期末配当金　1株当たり6円50銭
2.支払対象者　平成23年3月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3.支払開始日　平成23年6月10日

1株当たりの配当実績



平成21年にリーマンショックによる業績悪化で断念した「創業70周年、創業者山本重雄誕生100年」の記念配当1株当たり3円を実施しました。これに期末配当金1株当たり3円50銭を加えた6円50銭とさせていただきました。これにより当期の配当金は、中間配当金と合せ1株当たり10円となります。

個別株主資本等変動計算書

当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					評価･換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成22年3月31日残高	5,001	3,308	3,004	△946	10,368	951	11,319
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△208		△208		△208
当期純利益			584		584		584
自己株式の取得				△169	△169		△169
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（順額）						2	2
事業年度中の変動額合計	—	—	375	△169	205	2	208
平成23年3月31日残高	5,001	3,308	3,379	△1,115	10,574	954	11,528

2011年3月31日現在

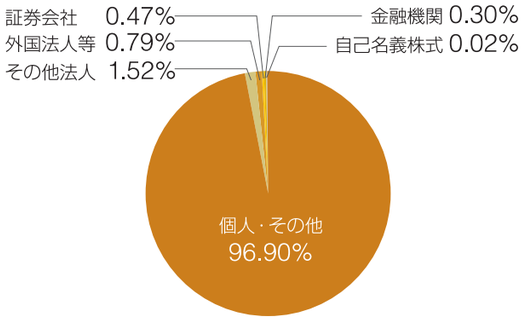
株式の状況

会社が発行する株式の総数	128,503,000株
発行済株式の総数	33,061,003株
株主数	4,280名

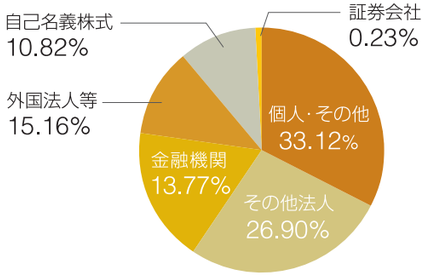
大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.1
ゴールドマンサックス インターナショナル	3,756	11.3
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
株式会社みなと銀行	925	2.7
指月協友持株会	737	2.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	711	2.1
株式会社ノーリツ	560	1.6
指月電機製作所自社株投資会	491	1.4
東京海上日動火災保険株式会社	383	1.1
日新火災海上保険株式会社	337	1.0

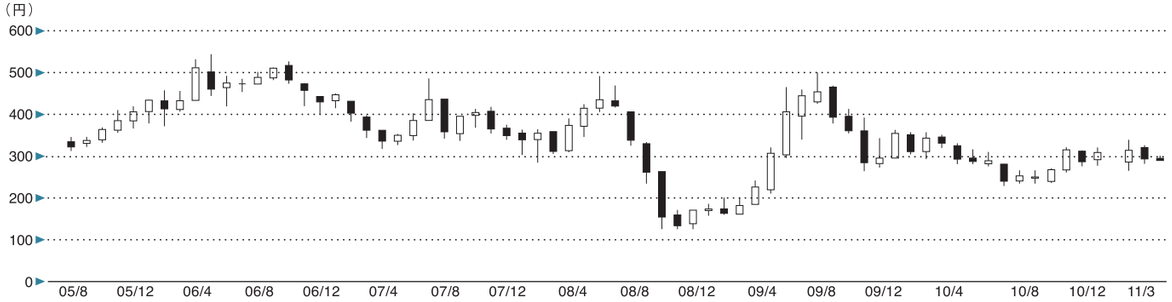
所有者別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況



株価チャート



2011年3月31日現在

会社概要

商号	株式会社指月電機製作所
英文名称	SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
本店所在地	〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号 TEL:0798-74-5821
ホームページ	http://www.shizuki.co.jp/
創業年月日	昭和14年3月10日
設立年月日	昭和22年9月1日
資本金	5,001,745,595円
グループ従業員数	1,352名
主要取扱業務	●コンデンサ及び関連機器・装置 ●電力機器・装置 ●情報機器・装置 の製造販売
営業拠点	●東京支社 ●東京支店／関西支店／中部支店 ●札幌営業所／仙台営業所／日立営業所 広島営業所／福岡営業所 ●マレーシア連絡事務所／韓国連絡事務所

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社（福岡県）	490,000千円	100.0
秋田指月株式会社（秋田県）	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社（岡山県）	200,000千円	100.0

販売・生産子会社

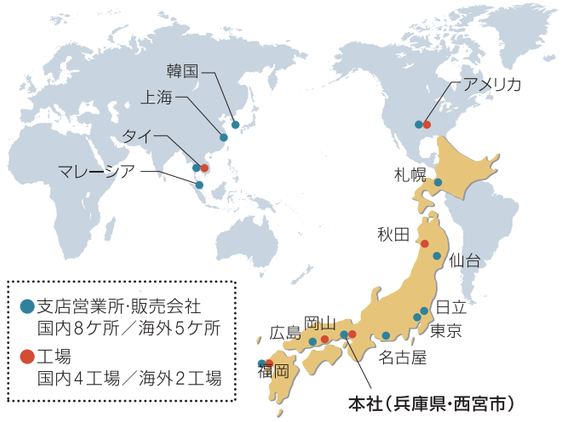
社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシヅキ株式会社（米国 ネブラスカ州）	17,600千米ドル	100.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千バーツ	70.0

役員

取締役

※社外取締役

取締役会会長	梶川　泰彦
取締役	木佐木正文
取締役	川本十七生
取締役	池田　義範※
取締役	増田　幹登※

執行役

代表執行役社長	梶川　泰彦
専務執行役	木佐木正文
常務執行役	志方　正一
常務執行役	足達　信章
常務執行役	浦屋　昌吾
執行役	谷口　義裕
執行役	伊藤　薫
執行役	矢部　久博
執行役	小田　敦
執行役	山本　則彦